

[9] 西都市小体連のあゆみ

I 年間事業

実施日	曜	事業名	主な内容	会場
5月10日	水	第1回 体育主任会	役員選出 主題研究の推進	妻北小学校
6月12日	月	第2回 体育主任会	主題研究の推進 水泳大会の運営確認	妻南小学校
7月25日	火	水泳大会前日準備	水泳大会会場設営 選手名簿作成	妻南小学校
7月26日	水	水泳大会	水泳大会運営 片付け	妻南小学校
8月24日	木	第3回 体育主任会	水泳大会反省 陸上記録会概要確認	妻北小学校
10月5日	木	第4回 体育主任会	主題研究の推進 陸上記録会運営確認	妻南小学校
11月1日	水	陸上記録会前日準備	陸上記録会会場設営 運営確認	西都市陸上競技場
11月2日	木	陸上記録会	陸上記録会運営 片付け	西都市陸上競技場
12月8日	金	第5回 体育主任会	研究授業 授業研究 研究のまとめ	妻南小学校
2月中旬予定		第6回 体育主任会	次年度への引継確認	妻南小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳大会

- (1) 目的 西都市内の小学生を対象とした「水泳大会」を実施することにより、児童の水泳の技能を高めるとともに児童相互の親睦を図り、学校体育の振興に寄与する。
- (2) 日時 平成29年7月26日(水) 8:30～12:00(小雨決行)
- (3) 会場 西都市立妻南小学校 屋外プール
- (4) 参加者 市内の小学校に在籍する5・6年生の児童(保護者の承諾を受け健康診断で異常のない児童)
- (5) 競技種目 クロール(25m、50m)・平泳ぎ(25m、50m)・100mリレー
- (6) 日程

時刻	内容	備考
8:00	各学校 8:00 までに児童の出席状況を把握し、体育館ステージ前にいる担当へ報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・集合場所体育館、確認後更衣! ・体育館壁面に学校名の紙を貼る。 ・欠席者、選手変更、オーダーの確認 ・役員顔合わせ、打ち合わせをする。
8:10	○ 着替え→プールで体操・シャワー・25m泳ぐ	
8:15	○ 児童管理以外の係打合せ(各役員)→本部席前	
8:20	○ 水慣れ後に整列 8:25 までには集合整列できるようにする。	・プールサイドに移動する。
8:30	○ 開会式 1 一同礼 2 教育長あいさつ 3 競技上の注意 4 選手宣誓 5 一同礼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式が始まる5分前までに児童の整列を完了させておく。 ・ 式の間は水泳帽・ゴーグル・タオル・体育服等は身につけさせないこと。 ※ 体育着(上)を脱いだ状態で待機
8:40	○ 準備運動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種目とも次の順で行う。 ① 5年女子 ② 5年男子 ③ 6年女子 ④ 6年男子
9:00	○ 競技 ① 25m クロール ② 25m 平泳ぎ ※ 25m 競技の記録放送・熱中症対策入水	
	③ 50m クロール	
10:35	④ 50m 平泳ぎ	
11:00	※ 50m 競技の記録放送と小プールでのリレー選手の水慣れ	
11:15	⑤ 100m リレー	
11:20		

11:30	○ 閉会式 進行 1 一同礼 2 新記録表彰 3 大会会長あいさつ	
11:40	4 一同礼	

2 陸上記録会

- (1) 目的 西都市内の小学生を対象とした「陸上記録会」を実施することにより、各種の陸上運動の能力を高めるとともに、学校の枠を超えた児童の親睦を図る。
- (2) 日時 平成 29 年 11 月 2 日 (木) 9:30 ~ 15:30 (会場集合は 9:00 まで)
- (3) 会場 西都原運動公園陸上競技場
- (4) 参加者 西都市内の小学校に在学する 6 年生の児童
※ 小体連の承認がある場合はリレーの補充として 5 年生の参加を認める。
ただし、個人種目については記録証のみを授与する。
- (5) 競技種目 走 (100m,200m,800m,1000m,50m ハードル,400m リレー)
走り幅跳び・走り高跳び・ソフトボール投げ
- (6) 日程

時刻	内容				備考			
9:00~ 9:15	※ 9時まではリレーの練習をしておく。(白線を消さないように注意) ○ 係打ち合わせ・・・決勝審判は陸連とそれ以外は係ごとで行う。 ○ 選手名簿で出欠の確認				・引率職員はリレーのコースで指導 ・大会役員は本部席前に集合。			
9:15~ 9:25	○ 児童の移動・集合・整列(事業部長) ・遅くとも 9:25 には集合整列できるよう、児童管理は児童に指示する。理事長は、入場の仕方を全体指導する。				・グラウンド北側トラックに移動し、迅速に整列する。			
9:30 9:55	○ 開会式 ① 選手入場 ② 開式のことば (理事長) ③ 国旗・市旗・小体連旗掲揚 (児童代表) ④ 来賓あいさつ (教育長) ⑤ 競技上の注意 (事業部長) ⑥ 選手宣誓 (児童代表) ⑦ ラジオ体操 (児童代表)				・全学校帽子(白)を着用して式に臨む。 ・⑦⑧のマイク移動は事業部長が行う。 ・ラジオ体操では、8番目の運動でイチ・ニ・・・と元気よく声を出す。			
10:05	○ 競技							
	トラック種目				フィールド種目			
	順	部	競技種目		順	部	競技種目	
	1	特選	男子	200m 走	1	特選	男子	走り幅跳び
	2	一般	女子	100m 走				走り高跳び
	3	特選	男子	1000m 走				ソフトボール投げ
	4	特選	女子	800m 走	2	特選	女子	走り幅跳び
	5	特選	女子	200m 走				走り高跳び
	6	一般	男子	100m 走				ソフトボール投げ
13:15 14:00	昼食(12:00~12:45)							
15:00	7	表現	子ども臼太鼓踊り (天候によっては中止になる場合があります)					
	8	特選	男女	50m ハードル				
	9	特選	女子	400m リレー				
	10	特選	男子	400m リレー				
15:10 15:30	○ 閉会式 (放送・・・閉会式のはじまり→一同礼) ① 新記録表彰 (会長) ② 大会会長あいさつ (会長) ③ 国旗・市旗・小体連旗降納 (児童代表) ④ 閉式のことば (理事長)				・全学校帽子(白)を着用して式に臨む。 ・①は新記録が出た場合のみ行う。 ※リレー失格の場合は各審判員から本部(理事長→会長→放送)へ連絡し順位等の判断をする。			

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題並びに副題

研究主題

主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育学習の在り方

副題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った器械・器具を使つての運動の実践を通し

西都市小体連では、平成26年度に西都市の教師に対し、体育指導についてのアンケートを実施した。その結果、先生方が「器械運動系」の領域の指導に困っているという実態が浮かび上がった。そこで平成26年度は、優れた実践等を各学校の体育実技研修等で紹介し、課題の解決に向けた取組を行った。さらに平成27年度には研究授業を実施し、実践的に「器械運動系」の領域の研究に取り組み、平成28年度には各校での実践を基に報告会を行い研究を深めた。

本年度は、県の研究主題との整合性から、研究主題・副題の見直しを行った。引き続き、領域は「器械運動系」のままで、主体的・対話的で深い学びの視点から、学習形態の工夫、場の工夫、ICT活用の在り方の研究を行った。昨年度に引き続き、各校での実践についての報告会を行い、共通の成果・課題について整理した。

2 研究の仮説

「器械運動系」領域の学習について、主体的・対話的で深い学びとなるための学習形態や場の工夫、ICTの活用を図ることで、運動の楽しさや喜びを味わいながら、進んで運動に取り組む児童を育成することができるであろう。

3 研究の内容

主体的・対話的で深い学びの視点から、

- (1) 学習形態の工夫
 - (2) 場の工夫
 - (3) ICT活用の在り方
- の研究を行う。

4 研究の実際

主体的・対話的で深い学びとなるよう、以下の3つの視点で研究を進めた。

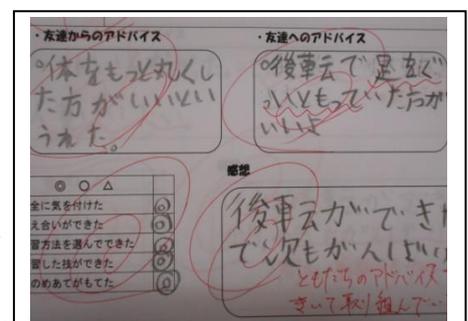
(1) 「器械運動系」領域の授業における学習形態の工夫

① アドバイスタイムの設定

アドバイスタイムを設定することで、お互いの技を客観的に見ることができるようにした。アドバイスタイムの前には、全体でモデル等を使って技のポイント等を確認する時間を設定した。技のポイントを基に、友達にアドバイスをもらいたいところを伝えさせ、相手は、そのポイントに焦点化してアドバイスを行うようにした。その結果、友達の技をじっくり見る時間ができ、友達の動きと比較しながら自分の技を振り返り、練習に生かすことができた。また、自己の課題を相手に伝えることで、体のどの部分を見ればよいか視点が明確になり、アドバイスしやすくなった。

② 連続技への挑戦

第1学年における、グループで技を組み合わせて連続技を考えるという実践である。犬→しゃくとり虫→あざらし→うさぎとび→かえるの足うちなどの既習の技を、つながりを意識しながら、連続技になるようグループで考えた。これにより、さらに技を磨こうとする意欲を高めさせることができた。また、動きのつながり方を友達と見合うことで、友達のよさについて話し合うことができた。



【アドバイスを書いたワークシート】



【アドバイスタイムの様子】

(2) 「器械運動系」領域の授業における場の工夫

① 本時の主運動につながるウォーミングアップ・サーキットトレーニング

〇〇っ子ウォーミングアップや〇〇サーキットを毎時間行う実践も報告された。けが防止のために、運動に使う足首、手首、腕、膝を特に意識しながら準備運動を行った。

また、新体力テストの結果を踏まえながら、毎年ウォーミングアップの中に入れる運動を更新し、自校の課題となっている種目の改善につなげているようである。

② 技のポイントを示したワークシートの活用

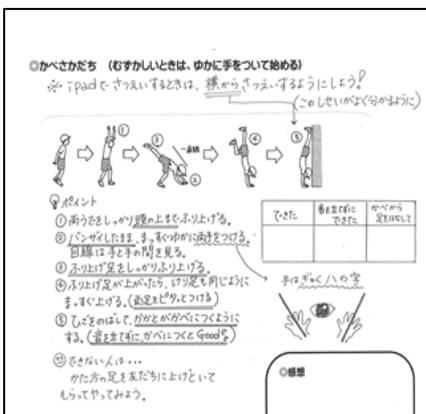
第4学年の壁倒立では、ワークシートに技のポイントを示し、ポイントを明らかにした上で技に取り組みました。目標やアドバイスの視点が明確になり、ほとんどの児童が壁倒立ができるようになった。

③ マット運動での4つのコース設定

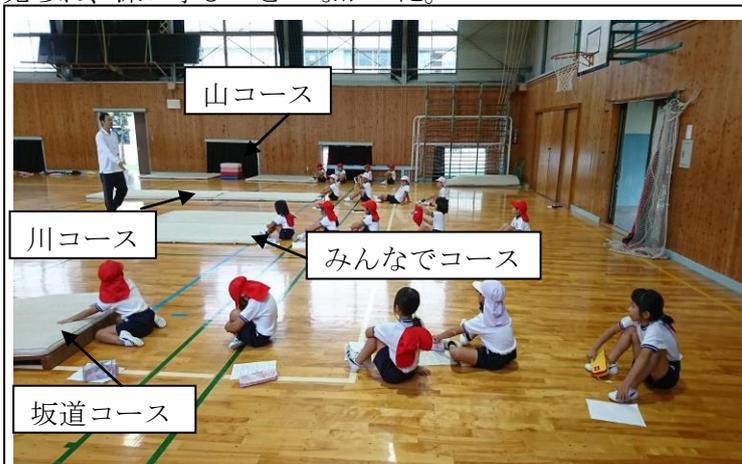
第1学年のマット運動で4つのコース（山コース・川コース・みんなでコース・坂道コース）を設定し、それまでに学んだ運動を生かしながら、グループごとに工夫してマット運動に取り組みました。活動を中断して、よい動きを行っているグループを紹介し称賛したことで、運動をより工夫する姿が見られ、深い学びへとつながった。



【〇〇サーキットの準備の様子】



【技のポイントを示したワークシート】



【マット運動での4つのコース設定】



【みんなでコースの活動の様子】

(3) 「器械運動系」領域の授業におけるICT活用の在り方

① タブレット端末を活用した目標設定・アドバイス

練習に入る前に、前時の自分の技をふり返る際、タブレット端末を活用した。映像を視聴後、本時の自分の目標を考えさせるとともに、友だちにもアドバイスをもらえるようにした。その結果、児童同士の教え合いが活発になった。

② タブレット端末を活用した学び合い

また他校の実践では、互いの技をタブレットで撮影し、技のポイントと映像を照らし合わせながら学び合えるようにした。ポイントを意識しながら客観的に自分の姿を見ることができ、それぞれの課題を明確にできた。また、実際の映像を見ながら学び合いをすることで、児童同士でポイントを確認し、高め合う姿が増えた。



【タブレット端末での撮影の様子】

5 研究の成果と課題

- 「器械運動系」領域の授業において、主体的・対話的で深い学びとなるための学習形態や場の工夫、ICTの活用を図ったことで、運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童が増えた。
- 「器械運動系」領域の基本的な技能が、より高まるための手立てを考えていく必要がある。